

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立入間野小学校
校長 小俣 恵美子

平成30年度 狭山市立入間野小学校自己評価書

1 本年度の重点目標

- (1) 学校課題研究 特別活動「めあてを明確にもち、所属する集団のために実践していく学級活動の創造」の推進
- (2) 知識・技能の確実な習得と活用する力の育成
- (3) 運動の日常化と進んで運動する児童の育成
- (4) よりよい人間関係を築き、協力し、自主的に活動する児童の育成
- (5) 積極的な学校応援団・SSVCの活用による教育活動の充実
- (6) 安心・安全な学校づくりの推進
- (7) 職員室の美化と、美しい言葉づかいによる教育環境の整備
- (8) 家庭、地域、関係機関と連携した教育活動の推進
- (9) 教職員の人材育成

2 本年度の経営方針

教職員一丸となって、児童一人一人と集団をよりよく変容させ、学校への信頼を得る

3 自己評価結果

【評価の目安】A：よくできている(90%) B：概ねできている(75%) C：あまりできていない(60%) D：できていない(60%未満)

項目	観 点	達成状況	改善の方策
	1 学校教育目標 (知・徳・体の調和のとれた児童の育成)		・正しいと判断したことは行い、注意を促すことができる児童を育成するために、 ①低学年では、正しいことをしっかり教え、自分を振り返ることができるようにする。 ②中学年では、正しいことが認められるような学級の雰囲気をつくる。 ③高学年では、軽い考えでの言動が正しいことを言えなくしてしまうことを適時指導する。
1	「仲よくする子」は具現化できたか。(目を見て挨拶、集団のために考え行動できる、正しいと判断したことは行い、注意する。)	B	
2	「考える子」は具現化できたか。(届く声で話す、文字を丁寧に書く、相手の考えを問い返したり質問したりする。)	B	
3	「やりぬく子」は具現化できたか。(あきらめず時間いっぱい取り組む、進んで運動する、危機管理能力を身に付ける。)	B	
	2 教育課程 (学力向上プランの推進)		・年度当初の指導法研修会で、本校の指導法スタンダードを研修し、「単元を貫く言語活動による国語科の授業」を始め、全校で統一した指導が実践され、学力向上の効果を上げている。 ・全学級に、ICTを効果的に活用し、デジタル教科書や書画カメラの利用が図られた。 ・相手の考えを分かろうとして問い返し、考えを深められる児童の育成を重点とし、低学年では、一人日直、朝のスピーチ3つのQ&A、中学年では、話し方の指導と友達の考えの復唱、高学年では、探求心を持たせる課題提示の工夫を行ったところ、児童が変容し、達成しつつある。 ・効果的な家庭学習の手引きに修正していく。
4	確実な学力を身に付けさせる補充学習ができたか。	B	
5	習熟の程度に応じた算数科の少人数指導はできたか。	A	
6	下敷きと消しゴムを使用したノート指導はできたか。	A	
7	「家庭学習の手引き」による家庭学習の習慣化はできたか。	B	
8	正しい姿勢と返事の仕方、統一した号令はできたか。	B	
9	問題解決的な学習過程はできたか。	B	
10	学習のめあての明示と児童のこぼれによるまとめはできたか。	B	
11	単元を貫く「言語活動」による国語科指導はできたか。	B	
12	話し合いのめあてと活かし方を提示したグループ学習はできたか	B	
13	ICTを効果的に活用した授業はできたか。	B	
14	教室に聞こえる声で発表し、問い返したり質問したりして、意見を大切に話し合い活動ができたか。	B	
	3 道徳教育(豊かな心の育成プランの推進)		・土日の学校公開日に実施する道徳の授業を学年で研修し、児童の実態に即した、ねらいとする価値を高める、ぶれのない指導方法を身に付けるようにしていく。
15	全体計画を理解し、全教育活動を通して、道徳教育を実践できたか。	B	
16	道徳の時間が児童の実態把握に基づき、計画的に実践できたか。	B	
17	ねらいとする価値を高める道徳の授業が実践できたか。	B	
	4 生徒指導(豊かな心の育成プランの推進)		・講話朝会の話の内容や校長室前の廊下掲示を参考にし、学級の実態に応じ、継続して指導し、成果を上げている。 ・個別の支援や対応が必要な児童に対して、問題が多様化している。教育相談部を機能させ、組織的に協議・検討し、対応していくようにする。 ・清掃指導は、再度、教職員間で確認していく。
18	講話朝会と学校のきまりによる一貫した生徒指導ができたか。	A	
19	校長講話から発達段階に応じ、学年・学級への指導ができたか。	A	
20	児童の実態の共通理解と時機を逃さない教育相談や就学相談、ケース会議ができたか。	B	
21	「時間いっぱいもくもくびかびか」を合言葉にした清掃指導ができたか。	B	
	5 交流教育(豊かな心の育成プランの推進)		・学級活動の学校課題研究により、提案理由に基づき、比べる、まとめる・決める話し合い活動が充実し、めあてに向かって準備し、実践するようになった。
22	異年齢集団による様々な交流活動を通して、体験的に学ぶ学習活動の充実はできたか。	A	
23	まとめる・決めるを意識した話し合い活動による学級活動はできたか。	A	

24	全教育活動を通じた人権教育と平和教育の取組はできたか。	B	・児童が、みんなのためにを意識して交流している様子が見られるようになった。
6 特別活動(豊かな心への育成プランの推進)			<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の研究に全力で取り組んでいることが、大きな財産となっている。児童が目指す児童像に近づくよう、引き続き実践していく。 ・集中している4学年の2学期の学年行事の計画を検討する。
25	学級経営案の「学級における指導計画」に基づき、学級活動は計画的に行うことができたか。	B	
26	児童会活動やクラブ活動は計画的に実施され、児童の自主的・実践的な態度が育成できたか。	B	
27	学校行事は適切に実施することができたか。	B	
7 体力向上の維持増進(体力向上プランの推進)			<ul style="list-style-type: none"> ・朝マラソンの実践が功を奏している。体育部で、本校の体力の課題「握力」「投力」「上体起こし」についての解決策を提案し、授業の中で、あるいは日常的に、児童が体力向上できるようにしていく。
28	基礎基本を確実に定着させた、より楽しい体育の授業づくりができたか。	B	
29	進んで運動に親しませるための朝マラソンの取組ができたか。	A	
8 保健健康安全(体力向上プランの推進)			<ul style="list-style-type: none"> ・歩道橋工事に伴う登校・下校指導が徹底できており、事故を未然に防ぐことができた。 ・学校保健委員会と家庭教育学級で連携しての保護者と共に学ぶ学校栄養士を招聘しての食育指導は、大変効果的であった。
30	健康・安全についての理解が深まり、習慣化されるように指導できたか。	B	
31	保健目標を意識した健康指導ができたか。	B	
32	交通安全指導は、継続的・効果的に実施することができたか。	B	
33	避難、引取り、AEDを使用した訓練を実施し、確認した行動がとれるようになったか。	B	
9 学年・学級経営			<ul style="list-style-type: none"> ・学年会を、報告・連絡・相談だけでなく、指導方法の研修の場として資質向上を図ることができた。特に、低・中・高学年のブロック部会が効果的な研修の場となった。
34	学校・学年・学級経営の方針に基づき一貫性のある経営ができたか。	A	
35	意図的・計画的に学年・学級経営を進めることができたか。	B	
36	児童の自己実現を図る場を多く設定することができたか。	B	
37	いじめや差別のない学級づくりと人権教育はできたか。	B	
38	教室環境の整備に努力ができたか。	B	
10 校内研修など			<ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高学年の授業を見合うことで、段階に応じた学級活動の指導の在り方を学ぶことができた。 ・研究発表に向けた取組は忙しかったが、職員が一つになり、さらに児童の力を伸ばすことができたことは、研究の達成感を味わえた。
39	学校課題研究特別活動「めあてを明確にもち、所属する集団のために実践していく学級活動の創造」を目指して意欲的に取り組むことができたか。	B	
40	研究組織や進め方は、研究内容に応じて、合理的・機能的にできたか。	B	
41	研究内容を日々の指導の中に生かし、自己の研鑽に努めることができたか。	B	
11 職務遂行・服務(目指す教師へむけて)			<ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談がよくできている。 ・職務上の達成感が、負担感を上回ることができている。発表へ向け、忙しい時期に、職員が健康の自己管理をし、心身を健全に保つことができていた。 ・一人のつぶやきをみんなで聞き、応えていこうとする風通しのよい、過ごしやすい職場を、今後も継続していく。
42	意欲的に職務に取り組むことができたか。	B	
43	報告・連絡・相談はしっかりできたか。	A	
44	教育公務員としての自覚を持ち、公務員倫理のもと、服務の厳正に努めることができたか。	B	
45	ゆとりをもった出勤ができたか。(出勤簿への捺印を含む)	B	
46	服装、言葉遣い、挨拶等は適切にできたか。	B	
47	出張や研修の報告は速やかに行うことができたか。	A	
48	組織の一員としての自覚に基づき、一人一人の責任を果たすことができたか。	B	
49	ワークバランスを考え、自己の健康管理はできたか。	B	
12 環境、施設設備			<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の結果のまとめと、対応の検討、処理の結果の周知の筋道を、安全部で再検討し、落ちなく継続してできるようにしていく。
50	校舎内外の施設設備の整理整頓、修繕は適切にできたか。	B	
51	清掃用具の片付けはしっかりできたか。	B	
52	教育効果を高める掲示ができたか。(学級・学年・特別教室など)	B	
53	安全点検・対応は適切にできたか。	B	
54	美しい言語環境の推進はできたか。(対児童・保護者・来校者)	B	
55	職員室の共有スペースやロッカー、机上の整理整頓はできたか。	B	
13 家庭・地域との連携			<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、習字ボランティアも導入する等、年々充実し、地域の中の児童に育成できつつある。 ・今後は、家庭科の学習支援ボランティアも継続させていきたい。
56	保護者、PTAと協力できたか。	B	
57	保護者・地域・学校応援団の力を生かすことができたか。	B	
58	保育園・幼稚園、中学校、高校、公民館や図書館などとの連携はできたか。	B	
14 学校事務			<ul style="list-style-type: none"> ・全校統一日に集金し、翌日支払いができるように改善したことは、大変効果的であった。
59	現金の取り扱いには細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理できたか。	A	
60	情報の管理は適切にできたか。	B	